

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070101120
法人名	社会福祉法人わかうら会
事業所名	わかうら会
所在地	和歌山県和歌山市田野180 (電 話) 073-447-2940

評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市4番丁52 ハラダビル2階		
訪問調査日	平成19年8月25日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】(平成19年8月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 9 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6人	常勤	6人, 非常勤 人, 常勤換算 6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨耐火造り		
	1階建ての	1階	～ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(平成19年8月8日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名	
要介護1	1名	要介護2	6名			
要介護3	1名	要介護4	1名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	86.9歳	最低	81歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	月山病院、橋本病院、和歌浦中央病院、角谷整形外科病院、浜の宮病院、遠藤皮膚科、松田眼科、和中歯科、榎本耳鼻咽喉科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは和歌浦湾を眼下に臨み玄関を一步外に出ると視野に海が広がり彼方に四国や淡路島も見られる素晴らしい景観の中に立地している。すでに開設されている介護老人福祉施設に併設の形で開設された。地域住民との交流は難しい立地条件ではあるが、高台に建てられたホームは内部から併設の施設の4階につながっている構造なので容易に行き来できて閉鎖的にならず、施設や通所の行事にも自由に参加するなど、施設職員や利用者との交流が自然な形で行われている。職員は向上心があり入居者の思いや意向の把握に努め入居者本位のサービスが提供できるよう努力しており、入居者は明るく温厚な表情でゆったり過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	具体的な改善にむけて改善計画を作り、前回指摘された運営理念については施設内に掲示しパンフレットにも明示を図る等の改善がされている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的については十分認識され、それぞれの立場で今後の改善課題も検討されている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の要綱を作成し3ヶ月に1回以上の開催を目指しているが1回開催されてはいるが継続されてはいない。メンバーは入居者本人、家族、市職員、施設関係者で構成され、利用者の状況、外部評価の結果等報告され、話し合われているがサービスの向上に活かすまでには至っていない。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は多く家族に向けてのホーム便りは出していないが、訪問時には口頭で情報交換し必要に応じて記録に残し職員間で検討し改善に結び付けている。家族が意見や苦情を伝えやすくする方法を検討している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人施設そのものが一つの集落的な立地条件にあり、ともすれば孤立しやすい要因が見受けられるが津波等の災害時の避難場所になっており地域の人達と避難訓練を実施するなど交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「一人ひとりに愛情を込めて」自立した生活を営める場としての理念を作りあげているが地域のなかでの生活という部分については含まれていない。	○	法人の基本理念として地域との積極的な交流を掲げているが事業所独自の理念としても地域密着型サービスとしての役割を理解しこれまでの理念に付加することが期待される
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	隔月開催のグループホームの全体会議で話し合われているが、日常的な意識付けとして理念の具体化が統一されていない部分がある。	○	統一された理念が反映されたサービス提供に向けて職員間の十分なコミュニケーションを図る事が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人施設そのものが一つの集落的な立地条件にあり、ともすれば孤立しやすい要因が見受けられるが、災害時の地域の避難場所としての指定もあり地域の人たちとの避難訓練など地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を活かした方向で検討した改善計画が作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者本人、家族の代表 市町村職員、地域住民(自治会長である法人理事長)がメンバーとして参加し1回開催されたが個々の事情もあり会議はその後開催されていない、またそこでの意見をサービス向上に活かすにいたっていない。	○	幅広い立場の人にメンバーとして加わってもらい多くの率直な意見を引き出し改善に向けた取り組みや意見交換がされるよう事業者側の積極的な姿勢と働きかけが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議の参加以外は取り組まれていない。	○	現場や入居者の課題解決など市町村担当者との協働関係づくりも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者9名の家族は毎月訪問があり、その際職員は入居者1人ひとりの日々の暮らしぶりや健康状態をきめ細かく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には何でも言ってもらえるような雰囲気作りはしているがなかなか意見として聞けていない。ご意見箱等の設置を検討中である。	○	意見や苦情は事業所の宝として職員や事業所側から積極的に家族等が意見等を表せる機会づくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は同一法人内で異動基準が設けてあり特養施設の経験を踏まえたうえでの異動が基準とされている。	○	特養施設とグループホームの共同生活の介護の違いを考慮し馴染みの関係を重視した異動や人員配置が期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加は業務の一環として取り組まれ働きながらのトレーニングの一助としている。又事業所内に於いてもテーマ別研修や定例勉強会が開かれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会には加わっているが具体的な交流はされていない。	○	恵まれた立地条件を活かし他のグループホームの見学や相互研修などの場として活用し事業者同士の質の向上に向けての取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に関しては急な環境の変化に困惑しないようショートステイなど併設の施設内の部署の利用や職員や利用者同士の誘い合いなど工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者との会話を大切にし入居者本人の思いを聞き出し共感し、時には職員が励まされ支えてもらう関係づくりが築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表や日々の声かけと表情などで入居者の思いを汲み取り、希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見とともに日頃の関わりの中での職員の意見等も取り入れ、話し合いのもとに介護計画を作成しているが、記載内容が項目に即していないところが見られ分りにくく職員への周知がやや不十分などところがある。	○	介護計画書の項目に即した分かり易い内容の記載と職員一人ひとりが実践しやすい介護計画の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他にも状態変化や要望を取り入れた見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の診療所や併設の施設のデイサービスや機能訓練設備を活かし、入居者1人ひとりに合わせた柔軟な支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所の利用だけではなく、家族の同行により、かかりつけ医の受診や症状によって往診にも出向いてもらっている。家族の同行が難しい場合の職員の代行も前向きに検討中である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針に基づき家族や併設診療所とも相談しながら対応した終末期事例もあり、今後も最大のケアについて話し合い、家族の意向を踏まえながら支援していく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人を尊重し、職員は誘導の声かけや言葉かけに配慮し、誇りやプライバシーを損ねない対応が見受けられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室の掃除など職員がしてしまうのではなく根気よく見守り入居者一人一人の能力やペースを尊重した支援を心がけている。気の合った入居者同士トランプをしている場面も見受けられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者自らが配膳や後片付けに加わり、個々の力を活かしながら、職員と利用者が同じテーブルを囲み和やかな食事風景が見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望やタイミングに合わせての入浴支援は出来ていないが、一人一人の意向を第一に、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人一人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるような支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験を発揮する場面作りがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一歩外に出ると山あり海ありと自然に囲まれた環境で、時々はお弁当を持って景色を見ながら戸外で過ごす支援がされている。	○	買い物や見学、墓参り等、一人一人の習慣や楽しみごとに合わせた支援も期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は開設以来鍵のかけないケアに取り組み入居者は自由に併設の施設に出かけることができ他の部署の職員の協力も得ながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に際してはスプリンクラーを設置し避難訓練も行われている又屋外への避難場所も広く確保され災害に備えての訓練と併せて飲料水の備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え入居者一人ひとりの食事の摂取状況も毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している水分補給にも充分配慮がされているが記録として残されていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井は圧迫感の無いよう高くとられ不快な音も無く、広く取られた窓からは自然な光が注ぎ庭には家庭菜園の野菜や花もみられ季節の花もさりげなく生けてあり、誰かが寄り添っているような適度な空間もみられ居心地良く過ごせるよう配慮されているが、併設の施設の延長のように感じられる部分もある。	○	カーテンで仕切られたトイレや、職員の制服などを見直し、より家庭的な空間作りへの工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた家具の配置も工夫され、細やかな配慮が感じ取れる。		